

割合を制して算数好きを増やす！

～「割合の見方」を育む分数の系統的な授業づくりと協働的な学び「サミット型学習」を通して～

竹原市立竹原小学校 田岡 孝文

1 はじめに

これまでの全国学力・学習状況調査の質問紙調査やTIMSS調査等の結果から、日本の児童の学習意欲の低さが長年の課題となっている。先行研究やアンケート結果からその原因を分析していったところ、算数が嫌いになる大きな要因が「割合に関連する学習がそれぞれ独立して行われ、割合への知識のつながりが断片的になってしまっていることによる、割合への苦手意識」と「一斉指導による授業」であることが分かった。

そこで、割合との関連性が高いが、独立して学習が行われやすい「分数」において、「割合の見方」を育む系統的な授業づくりを、協働的な学習スタイルである「サミット型学習」を取り入れながら行うことで、割合への苦手意識の克服や学習意欲の向上を図ることができるであろうと考え、実践を行った。

2 研究仮説

サミット型学習により協働的な学びを促し、低学年から割合につながる見方・考え方を働かせる経験を積み重ねて割合の理解を深め、算数の学力が向上することで、算数好きの児童を増やすことができるのではないかと考えた。

3 研究の内容

(1) 分数と割合の関連性 (2) 「割合の見方」とは (3) 学習の系統について

4 授業の実践

【実践事例1】第2学年

(1) 単元計画

(2) 「割合の見方」との関連

(3) 授業の様子

【実践事例2】第3学年

(1) 単元計画

(2) 「割合の見方」との関連

(3) 授業の様子

(4) 考察

【実践事例3】第4学年

(1) 単元計画

(2) 「割合の見方」との関連

(3) 授業の様子

(4) 考察

【サミット型学習について】

5 成果と課題

検証問題の結果から、「基準」を意識させる分数の系統的な授業づくりにより、割合の見方・倍の見方が育まれつつあることがわかり、本実践の成果が一定程度見られた。しかし、割合の見方を完全に定着させるには、繰り返し学習することが必要であると感じたため、引き続き、割合に関連する様々な単元で基準を意識させる授業づくりを行っていきたい。

また、サミット型学習についても、学習意欲の向上と学びを深める手立てとして効果的であることが分かったため、様々な場面での効果的な実践を進め、検証していきたい。

6 参考・引用文献

・市川啓/高橋丈夫/青山尚司/加固希支男 (2022)、『算数教材研究 割合』、東洋館出版社